

地質標本館 第5回地質写真コンテスト 結果について (2)

宮内 渉¹⁾・青木正博¹⁾

第5回地質写真コンテスト(2009年3月開催)において受賞されました作品紹介の2回目です。今回は入選作品4点および入館者賞作品3点をご紹介します。作品は口絵257-258頁に掲載しました。写真説明等については

第1表のとおりです。なお、地質写真コンテストの概要については、本誌2012年5月号で報告しておりますので合わせてご覧ください。

MIYAUCHI Wataru and AOKI Masahiro (2013) Result report of the 5th Geological Photograph Contest (2).

(受付:2013年2月22日)

第1表 第5回地質写真コンテスト受賞作品一覧(2)

	氏名	題名	テーマ・ カテゴリー	撮影場所	撮影年月日	カメラ名	フィルム名・ 画素数	写真の説明
入選	西 祐司	薩摩硫黄島(3)キ ンツバ火口の夕景	地質現象	薩摩硫黄島硫黄 岳 山頂火口縁 (鹿児島県)	2001/11/20	Canon PowerShot S20	3M pixel × 3 枚の合成	キンツバ火口は、山頂の大穴火口の南西側にある直径約200mの火口地形です。写真の右側のU字型の谷状地形は大谷平に続く珪石採掘の影響です。硫黄岳では、江戸時代には珪石よりも硫黄の採掘が行われており、写真左下に昔の硫黄の搬出に使っていた廃屋があります。写真手前の地表には、右側の山頂火口から噴出された火山灰が厚く積もっています。
入選	澤田 結基	火山灰と石切場跡	地質現象	札幌市南区石山 緑地公園	2007/5/20	RICOH Caplio400G wide	2048x1536	札幌市南区には石切場の跡が随所に残っています。ここで採れる石材「札幌軟石」は、支笏カルデラから約4万年前に噴出した火山灰が固まった溶結凝灰岩です。火山灰は高温のガスと混じった火砕流として流れ、自分の熱で融けて固まりました。火山灰層の下側はよく固まっているので石材として使われましたが、上側は柔らかく、石切が終わった今では侵食に身をまかせています。
入選	佐藤 努	その露頭は世界遺 産!?	組写真 (地質現 象)	三重県紀北町 馬越峠	2008/10/31	Xacti DMX-CA6	2816x2112	山道に砂岩泥岩互層の露頭を発見!と思っても、ハンマーで叩いてはいけません。この山道は、世界遺産に登録されている熊野古道なのです(写真a)。熊野古道といえば、綺麗な石畳が有名。この山道だって、少し坂を下れば立派な石畳が出現します(写真b)。熊野古道の石畳は、現地調達した石を用いるのが原則なんだそうです。この馬越峠(海山側)の地質は、下部が熊野酸性岩、上部は四十帯上部白亜系です。ということで、綺麗な石畳が有名な下部とは対比的に、上部では四十帯上部白亜系の地層がそのまま露出しています。
入選	澤田 結基	アムール川の蛇行	地質現象	ロシア沿海地方・ アムール川上空	2005/6/10	RICOH Caplio GX	2592x1944	成田からヨーロッパに向かう飛行機は日本海を越えたあと、しばらくロシア上空を飛行します。離陸してから2~3時間、機内食をいただいたあと窓の外を見ると、ちょうどアムール川が見えていました。この水がオホーツク海に注ぎ、冬には流水をつくっています。
入館者賞	窪田 真弓	「最後の岩」…水 晶の群晶	地質標本	地質標本館		Nikon D300 +60mmマク ロレンズ		福島県郡山市の鉱山跡に出かけたときに、最初に見つけた水晶である。そのため、自分が所有している鉱物標本の中でも、格別な思い入れがある。とても形の良い結晶で、水晶が三方晶系である事もよく分かる。ほとんど無色透明であるために、結晶内の溝りが見通せる。大きな三本の水晶の周りにはことごとく貝殻状の断口になっていることから、かつてびっしりと生えていた水晶のほとんどが壊れてしまった事がわかる。三本の中心には小さな水晶が無傷で残っている。この三本が最後の岩となって、幼い水晶を破壊から守って来たのだ。写真の横が4.5cmに相当。
入館者賞	井上 裕貴	「土筆水晶」(つくし すいしょう)	地質標本	地質標本館		Nikon D300 +60mmマク ロレンズ		細長い水晶の上を、僅かに太い水晶が覆った二階建てになっています。このような水晶を「松茸水晶」とよぶならわしがありますが、松茸の茎に相当する部分がスリムになると土筆に似てきます。「土筆水晶」という言葉があると便利だと思いました。珍しい形なのでお気に入りの一品です。光の角度によって、一階部分の褐色が美しく際立ちます。長さ3.3cm。
入館者賞	徳橋 秀一	タービダイト砂岩を 覆う泥岩に2種類 識別できるかな? —平成20年度地質 調査研修(4泊5日) の記録10—	調査風景	勝浦市吉尾漁港 東方	2007/10/10	SANYO Xacti DMX-CA65型	5M pixel	勝浦市吉尾漁港のすぐ東方にのびる海蝕崖の大部分は、清澄層上部のタービダイト砂岩優勢砂岩互層から構成されている。厚いタービダイト砂岩を覆う直上の泥岩をよく観察すると、どの泥岩も、下部が下位のタービダイト砂岩と同時にもたらされた細粒均質なタービダイト起源泥岩、上部がタービダイトと関係がなく時間をかけて非常にゆっくと堆積してできたやや粗粒で不均質な泥岩(シルト岩)の2種類から構成されている。

1) 産総研 地質標本館